

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	ベーシックレッスン2_a	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	サウンドクリエイターコース	開設期	後期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1単位	開講時間		授業形態	演習
教科書/教材	必要に応じて譜面、資料等を配布する。				
担当教員情報					
担当教員	川島 基宏/甲原 圭		実務経験の有無・職種	有・トラックメーカー/作曲家	
学習目的					
基本的なDAWソフト操作からサウンドメイキングまで修得し、またエフェクト効果などを習得することにより其々の作品のクオリティを上げていく事を目的とする。トータルバランスを視野に入れたサウンドメイキングを各学生が制作し2年次での卒業制作・デビューに向けての準備を行う。					
到達目標					
音楽制作に必要な基本的な操作・知識・技術を学ぶ。1年次は主に4リズムセクションへのサウンド効果の技術・知識の習得を目標とする。実際の生楽器にも触れることにより、DTMにおける作業にリアリティを持たせる。生楽器の音を知ることにより、DAW上で施すエフェクト処理に大きな違いが生れることを意識づける					
教育方法等					
授業概要	DAWの操作方法、基本概念、基本的な（ベーシックな）エフェクトの使い方をCubaseを使用して学んでいく。 授業前半は講義・解説、後半はそれを実際にPCを使い実践していくスタイルで行う。				
注意点	スキルに個人差があるので、個別対応も行う。不明な点はその場で質問すること。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	50%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	0%			
	レポート	0%			
	成果発表 (口頭・実技)	40%	課題発表の内容について評価する		
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	エフェクト概要		エフェクトの種類と役割について		
2回	周波数変調系効果		コーラス・フランジャーエフェクターの効果と使用法の習得		
3回	振幅変調系効果		効果と使用法の習得		
4回	位相変調系効果		ディレイエフェクターについての知識と設定の習得		
5回	パルス変調系効果		トレモロエフェクターについての知識と設定の習得		
6回	歪系効果		ディストーションエフェクターについての知識と設定の習得		
7回	弱歪系効果		オーバードライブエフェクターについての知識と設定の習得		
8回	原音追加系効果①		オクターバーエフェクターについての知識と設定の習得		
9回	原音追加系効果①		ハーモナイザーエフェクターについての知識と設定の習得		
10回	DAWについて		外部プラグインに関しての種類と使用方法		
11回	シンセサイザーについて①		シンセサイザー基礎知識①アナログシンセサイザーの知識と効果		
12回	シンセサイザーについて②		シンセサイザー基礎知識②デジタルシンセサイザーの知識と効果		
13回	GM音色		シンセサイザー・エフェクトを総合的に使いこなす		
14回	ミックス		ミックスについての基本概念 ミックス技術の習得		
15回	後期まとめ		作品提出		

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	ベーシックレッスン2_b(ノーテーション/アレンジ)	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	サウンドクリエイターコース	開設期	後期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1単位	開講時間		授業形態	演習
教科書/教材	必要に応じて譜面、資料等を配布する。				
担当教員情報					
担当教員	二本柳一明・下條慧		実務経験の有無・職種	有、ミュージシャン、作曲家	
学習目的					
譜面と言うツールを用いて他人と意思を疎通させる能力を身につける。具体的には 1) 譜面を用いて様々な理論を学ぶための準備を行う。 2) 15回までの学習過程で、結局は基礎的な楽典を学ぶことになる。大局的な視点で音楽を捉えられるようになる。 3) 4 rhythm section に関するオーケストレーション・スコアリングを学ぶことにより、生・打ち込みに関わらず、アレンジング全般の基礎部分を身につける。					
到達目標					
1) 苦勞せずにノートを取る事が出来るレベルの読譜力と写譜力。 2) 根本的な仕組みを理解した上での正しいリズム表記。 3) 4 rhythm に関して、楽器の特性に関する十分な理解。 4) 4 rhythm (+ lead 楽器) セットアップでのスコア(およびパート譜)作成。					
教育方法等					
授業概要	1~15回で記譜法、16~30回で 4 rhythm アレンジを扱う。記譜法を学びつつ、ポピュラー音楽用語全般を広くレビューして行く。授業形態は講義中心となるが、課題量が多めなので、講師二人体制でそれらをチェックすることにより、徹底的な理解を目指す。 後半アレンジセッションでは、各楽器約1回の講義の後、最低1週はその楽器に関する課題実習の時間を取り、その中で楽器の特性とスコアリングに対する理解を個別に指導して行く。				
注意点	前期・後期とも単に「譜面が読める・書ける」ことを目標としているわけではなく、「読み手に余計な推理力を働かせることのない」譜面を作成することを常に念頭に置く。そのためには楽器に関する知識も必要であり、音楽理論も必要になってくる。譜面を書くことで「この先自分は何を学ぶべきか」が、学生一人ひとりに意識付けられるような指導を心がける。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	20%	トピックが変わるごとに実施		
	小テスト	20%	リードシートの作成		
	レポート	30%	指定された編成でのスコアおよびパート譜の作成		
	成果発表 (口頭・実技)	20%	授業内容を定着させる目的で、必要に応じて出題		
	平常点	10%	出席率および受講態度		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	low interval limit		LIL について		
2回	score 作成に関する注意点		第16回の続きと、score 作成に伴う注意点を把握する		
3回	syncopation①		syncopation をさらに細かく理解し、その際のリズムセクションの扱いを把握する。課題あり		
4回	syncopation②		第18回課題のチェックとブラッシュアップ		
5回	drums①		パーツの把握と記譜法の理解		
6回	drums②		パターンの実践		
7回	bass①		楽器の把握と記譜法の理解		
8回	bass②		ラインの作り方について		
9回	guitar①		楽器の把握と記譜法の理解		
10回	guitar②		打ち込みの実践		
11回	keyboards①		楽器の把握と記譜法の理解		
12回	keyboards②		打ち込みの実践		
13回	最終課題①		個別指導 1		
14回	最終課題②		個別指導 2		
15回	最終課題③		個別指導 3		

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	ベーシックレッスン2_c	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	サウンドクリエイターコース	開設期	後期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1単位	開講時間		授業形態	演習
教科書/教材	配布資料				
担当教員情報					
担当教員	佐倉 繁		実務経験の有無・職種	有・作編曲家 プロデューサー	
学習目的					
音楽基礎クラス、音楽周辺クラスでの修得事項を統合し、作・編曲、トラック制作に必要なあらゆる事項を総合的に理解し分析することを目的とする。 1年次は4リズムセクションに関して徹底的に分析することにより修了制作における基礎を築くことになる。					
到達目標					
各セクションの分析をすることによりトータルな（4リズムセクションの）サウンドを構築できるようにすることを目標とする。 あらゆるジャンルにおける分析を行うことにより、独自のトラックを制作できるようになることを目標とする。					
教育方法等					
授業概要	基本情報を基に「それらの情報が音楽を形成する上でどのように機能しているか？」を楽器の実音体験、アンサンブル、他あらゆる観点から体感する。 音楽情報、音楽周辺情報、ノートテイクによる統合と活用。 レポート提出、プレゼンテーションによる具体的な実践も含まれる。				
注意点	ノートの取り方を工夫する。毎回のノート記録を累積して情報の整理を行う。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備考		
	試験・課題	70%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	レポート	0%			
	成果発表 （口頭・実技）	0%			
	平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	4リズムセクション概要		4リズムセクションとは何かを理解する		
2回	ドラム・パーカッションパート①		楽器の構造、サウンド、機能を理解する		
3回	ドラム・パーカッションパート②		パターンを理解する		
4回	ドラム・パーカッションパート③		実演を通してドラムの機能・サウンド全体像の把握を目標とする		
5回	ベース①		楽器の構造、サウンド、機能を理解する		
6回	ベース②		パターンを理解する		
7回	ベース③		実演を通してベースの機能・サウンド全体像の把握を目標とする		
8回	ギター①		楽器の構造、サウンド、機能を理解する		
9回	ギター②		パターンを理解する		
10回	ギター③		実演を通してギターの機能・サウンド全体像の把握を目標とする		
11回	キーボード①		楽器の構造、サウンド、機能を理解する		
12回	キーボード②		パターンを理解する		
13回	キーボード③		実演を通してギターの機能・サウンド全体像の把握を目標とする		
14回	4リズムセクションアンサンブル		アンサンブルの方法論を分析し理解する		
15回	後期まとめ		通年での授業内容を振り返り修了制作に反映させる		

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	ベーシックレッスン2_d(レコーディング)	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	サウンドクリエイターコース	開設期	後期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1単位	開講時間		授業形態	演習
教科書/教材	資料は必要に応じて配布します。				
担当教員情報					
担当教員	鈴木一義・永田志実		実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン	
学習目的					
現在の音楽制作において、作曲家はメロディの制作だけにとどまらず、DAWソフトを使用した完成品での納品を求められるケースが多く見受けられる。その制作過程において、自身や外部ミュージシャンに依頼をし生楽器の演奏を録音することは必須条件となっている。また録音は外部のスタジオにとどまらず、自宅の制作環境でも多く行われている。そして、そのどちらにおいても同様の高いクオリティの作品を求められるケースは少なくない。この授業を通し、楽器の特性や録音方法、また、外部スタジオで最も多く導入されているProToolsへのデータコンバトの方法など極めて実践的なアプローチを習得することを目的とする。					
到達目標					
毎回の講義、録音実習を通して、録音に使用するマイクの種類や特性を学び、録音スタジオでのルーティングを理解をする。また、各自でセッティングをし、DAWソフトウェア（Cubase・ProTools）を使用し、楽器に対して適切な録音を行えるようにする。 DAWでの録音作業と並行してオーディオファイルについても理解を深め、最終的には録音したオーディオファイルの編集、それらを用いたラフミックスの作成までを行えるようになることを目指す。					
教育方法等					
授業概要	録音実習では、DAW教室でのナレーション、ボーカル、ギター、ベース等楽器のレコーディングを経験する。 DAWを使用した演習では、学生が録音したオーディオファイルを含め、DAW上で行うオーディオ編集、エフェクト処理等、オーディオファイルに関連する様々な事項を取得する。				
注意点	授業の際は筆記用具、ノート（五線紙もあることが望ましい）、データを記録する外付けHDD（SSD）、ヘッドフォン（必要に応じてミニステレオ→標準フォンプラグの変換）を毎回用意すること。毎回の授業内容はノートに採り、自身で繰り返し確認できるようにする。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験	30%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	提出物	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 (口頭・実技)	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1 回	インピーダンスについて		インピーダンスとは何かを理解する		
2 回	録音実習(3)エレキベースの録音		DIを使用して、エレキベースの録音を行う		
3 回	位相について		位相についての知識を身につける		
4 回	録音実習(4)エレキギターの録音		複数のマイクを使用し、位相に注意しながらセッティングを行う		
5 回	ソフトシンセ音源のオーディオ化		「流し込み」と呼ばれる作業についての理解を深める		
6 回	ステムデータとラフミックス(1)		パラデータをグループでまとめステムデータとして書き出す		
7 回	ステムデータとラフミックス(2)		本番用ミックスの前段階であるラフミックスを理解する		
8 回	ProToolsへのデータコンバート		異なるDAW間でのデータのやり取りを行う知識を身につける		
9 回	ProToolsの基本操作(1)		ProToolsの基本的な動作を身につける。新規セッションファイルの立ち上げ～再生録音まで		
1 0 回	ProToolsの基本操作(2)		ProToolsの基本的な操作を身につける。ProTools内のルーティング～レコーディング準備		
1 1 回	ProToolsの基本操作(3)		ProToolsの基本的な操作を身につける。キーボードフォーカス、ショートカットを使った編集作業		
1 2 回	録音実習(5)ボーカルの録音		ProToolsを使用し適正なレベルでボーカルの録音を行う。また必要に応じてリバーブをかける		
1 3 回	ボーカルトラックの編集		複数のボーカルトラックを組み合わせるボーカルトラックを完成させる。		
1 4 回	バウンスについて		最終的なオーディオの書き出しである「バウンス」について理解する		
1 5 回	後期試験（発表会）		各自制作した音源を授業内で発表する		